



- ▶ 7:00
地震発生
- ▶ 8:00
DMAT 隊員集結
- ▶ 8:80
DMAT 資機材及び
個人装備を積み出発

11月2日 7:00 地震発生	震源:駿河トラフ 規模:M8.0 浜松市:震度7	受入患者数 ・赤: 8名 ・黄: 15名	転送必要患者 ・赤: 8名 ・黄: 2名
当院の被災状況 ・患者受入:可能 ・空病床数:50	・建物被害:なし ・電気使用:可能 ・水道使用:可能	・ガス使用:可能 ・空調使用:一部	・手術機能:可能 ・検査機能:可能 ・給食機能:一部
人員 ・医師:やや不足 ・看護:やや不足	・薬剤:やや不足 ・その他職員: やや不足		

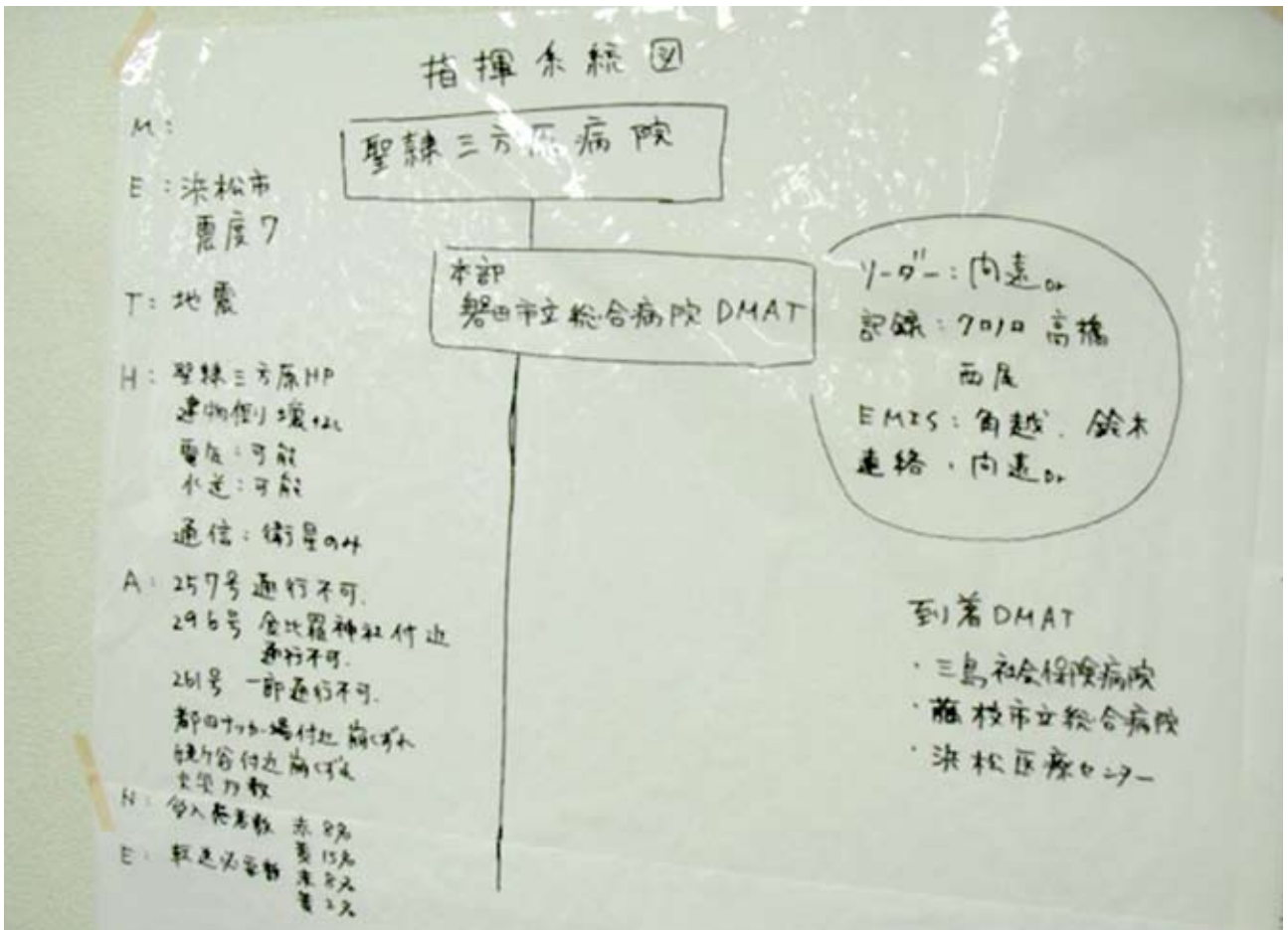
- ▶ 11:05
参集拠点の聖隷三方原病院に到着

まずは、聖隷三方原病院の被災状況を確認

先着していた、磐田市立病院、三島社保病院と共に活動拠点本部を立ち上げ

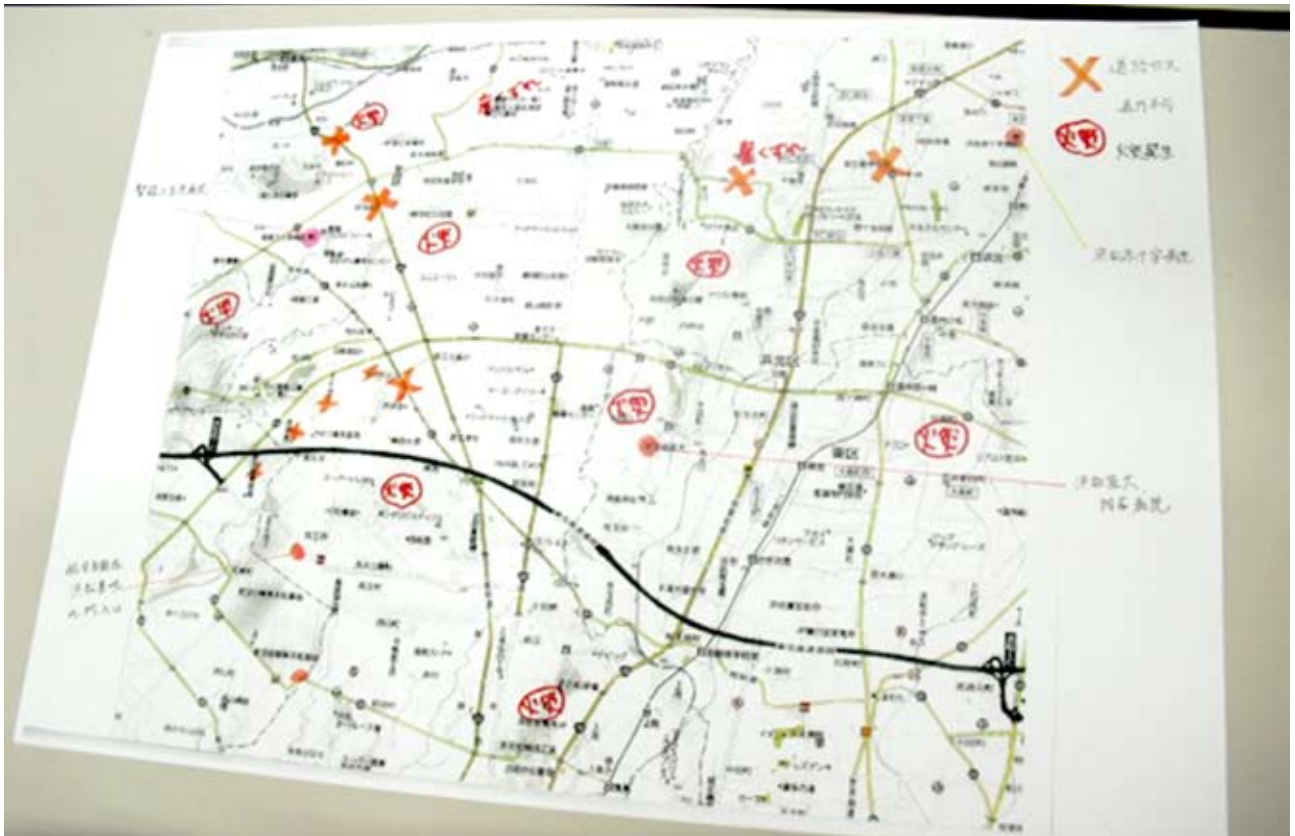


衛星携帯でのネット環境を確保するため、窓際で対応。



指揮系統を確認

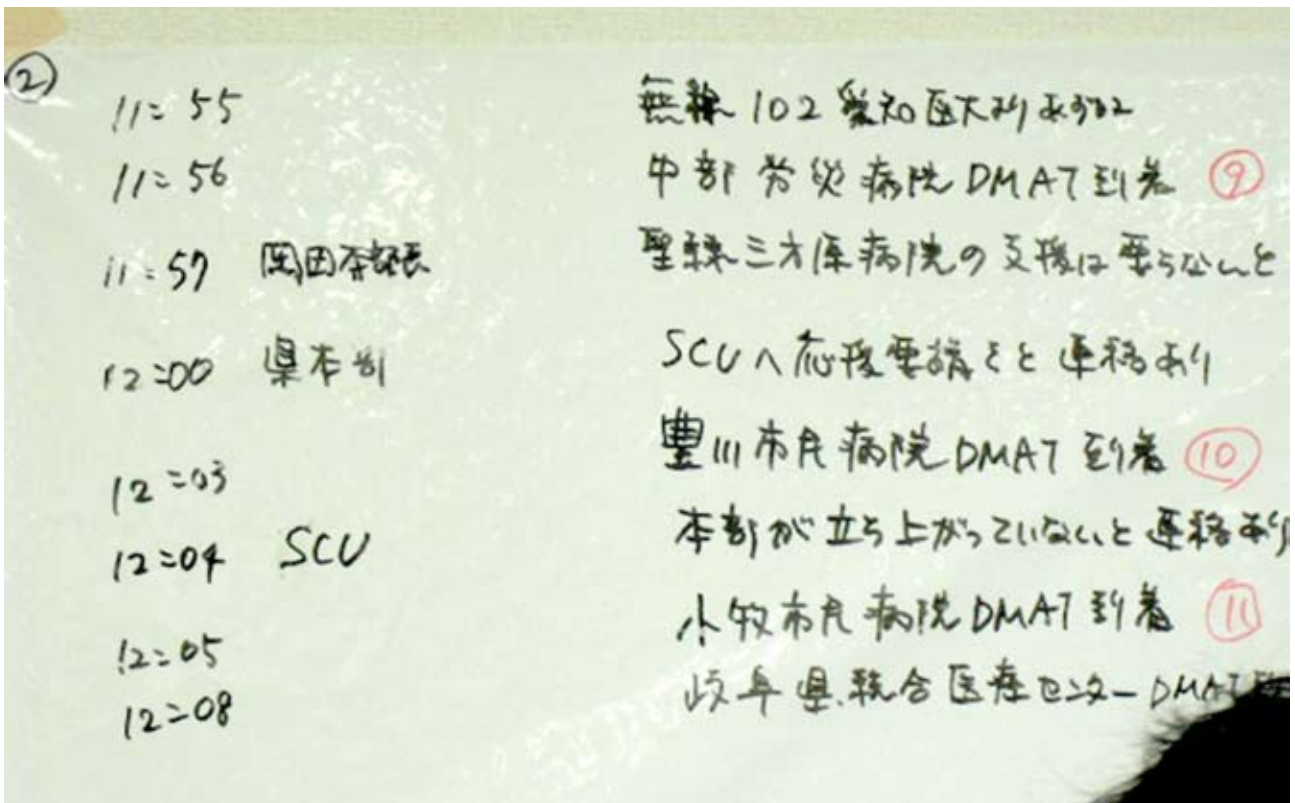
道路等の災害状況を確認





▶11:20 浜松医療センター到着

統括DMAT到着に伴い、暫定統括より交代





参集拠点である、聖隷三方原病院にどこの病院が来るのかEMISにて確認し、到着した病院を付箋にて貼付
もちろん、クロノロにも記載（上写真）

到着した、後着DMATは、待機室にて、派遣先が決定するまで待ちです



▶ 12:30頃

当院DMATは、航空自衛隊浜松基地への派遣となり、聖隷三方原病院を出発する。



▶13:15頃
浜松基地へ到着

先着の聖隷三方原病院がDMAT・
SCU本部を立ち上げ済



格納庫に処置用担架を設置。

患者が搬送されてくるまでに、
打合せを行う。





ドクヘリにて搬送されてきた、患者を引継ぎ、域外搬送できるよう処置を行う。



救急車にて搬送されてきた、患者を引継ぎ、域外搬送できるよう処置を行う。



業務調整員は、患者情報を収集し、ホワイトボードへ記載する。

一覧にすることで、患者の搬送順位を決定する。

搬送順位に従い、自衛隊の航空機を使用し域外へ搬送または、患者状態が悪い場合には、ドクヘリにより域内（近隣県）へ搬送する。



県外DMATは、高速を利用し、被災県へ入ってくるので、静岡県の場合には、西側が新東名・浜松SA、東側が東名・足柄SAが参集拠点となっている。
今回は、西側の新東名・浜松SAのみ設営された。(反省会のスライドより)

